

第11回 広域ごみ・汚泥処理施設候補地選定委員会まとめ

《開催日》 平成20年4月23日（水）午後1時30分～午後4時00分

《場所》 豊岡市立図書館 2階 視聴覚室

《出席者》 委員：寺嶋均、森住明弘、八村智明、日下部昌男、吉田勲、
定元之雄、狩野昇、山田政五郎、井上政信、中田雄久、
中村聖司、久保田八千代、西垣好博（敬称略）

組合：事務局長他 6名 合計20名

傍聴：20名（うちプレス3名）

《内容》 … 委員会次第

1 開 会

2 協 議

(1) 広域ごみ・汚泥処理施設候補地選定の結果について（報告）

質疑内容

Q. 森本・坊岡区の受入れに関する条件は、どの程度対応できるのか。

A. 森本区の受入れ条件は、水質・水量の確保、公害基準の遵守、交通対策であるゴミ収集車等の環境対策と、地域振興関係では、雇用に関する事、国県道・市道の対策も出ているが、国県道については、市も一緒になり対応していく。また、市営住宅の家賃が安くないかという要望もあったが、公営住宅法の縛りがあるため、このことには対応できないと回答している。

Q. 森本区の中で、隣接区の反対について理解を求めることが条件となっているが、こういった形で理解を求めようとしているのか。また、こういった対応をしてきたのか。

A. 隣接区の反対意見としては、大気汚染や地区の懸案事項である採石場の件等のことを言っている。森本区からは、隣接区から反対の声を聞いているが、これを無視して建設に同意することはできないということであった。

隣接区からは、3月に説明会開催の要望があったが、当時は時間的な問題もあり開催できないと応え、資料を持参した経過があり、先月あらためて説明会を開催させて欲しい旨をお願いしたところ、説明会は必要ないとの返事であった。

現在のところ隣接区については、こちらから説明は行っていないし、相手側からも理解を得ていないということであり、これからどう理解を求めようか検討する必要がある。

Q. 隣接区は施設からどれくらい離れているのか。

- A. だいたい1.5kmくらいである。
- Q. 総合評価のなかで、森本・坊岡区は隣接区から反対があり、森本区から隣接区の理解を求めることが条件となっているが、事務局が隣接区から理解を求めるといふことか。また、隣接区に対して理解を求めるといふことか。
- A. 3月に事務局の体制が変わったこともあり、挨拶に伺いたい旨の意向を伝え、面会の機会を得て反対の理由も伺った。その際、反対の理由としては大気汚染等についてのことであった。今回の施設は安全であるということから、説明会をさせてほしい旨、伝えたが、区長の一存では決められないので、区内で話をした結果、説明会は不要であるという回答であった。森本区に対しては、状況を説明し理解を求めていくことを伝えてある。
- Q. 森本・坊岡区の進入路を左岸から右岸に変更して対応するということであるが、河川の付け替えに対して県に申請の必要があると思うが、時間はかからないのか。
- A. この図面は決定ではない。現市道は拡幅しないということから、要望により左岸側から右岸側に変更可能だということのを付けたものである。決定した後で地元との話し合いにより決めていくことである。河川は砂防指定区域である。
- Q. 小河江・八代区の軟弱土の対策には、どの程度の期間が必要になるのか。
- A. 軟弱土の深さがだいたい20mくらいあるので、一次圧密は半年程度である。有機質は草木、細菌、繊維等が含まれるので、いつの段階で影響が出るのか分からないので影響が出たときに対応する必要がある。陥没が出てくるということである。維持管理費は単費となるので長期間にわたり費用がかかる。あまり好ましいことではない。
- Q. 小河江・八代区の検討課題である軟弱土の対策はどのように考えているのか。
- A. 埋め立て土は河道の掘削土で有機質を多く含んでいるため、圧密沈下、不等沈下に相当の対策が必要である。
- Q. 口小野・袴狭区の中の風評被害と理解度の内容で、新たに出てきたものについての説明願いたい。
- A. 当時は前向きな意見を聞いていたが、袴狭区では全国でここでもしか生産していない「フクノハナ米」の栽培をしているので、営農者から風評被害が心配だという意見が出てきている。
- Q. はっきりとした反対が出てきたわけではなく、区で諮ったというわけではないということか。
- A. 区として諮ったということは聞いていないが、風評被害が心配であるという懸念が出てきたということである。
- Q. 風評被害についての対策は考えているのか。

- A. 水については、外に出さないので問題はないが、こだわりを持って栽培されているため説得には至っていない。区と同じような説明をして、施設の安全性についての理解を求めてきた。
- Q. 口小野・袴狭区の風評被害以外に用地も取得しなければならないが、用地取得について何もふれていないので説明されたい。
- A. 口小野・袴狭区については、森本・坊岡区で開催した土地関係者会議等の場を持っていないが、口小野区では、区長さんが地権者に会い理解を得られると伺っている。袴狭区においては、区長さんを含む区長会の場において、地権者の理解が得られることを確認したが、用地の中に営農者所有地が含まれており、その用地取得の見込みはわからない。
- Q. これから反対の意見が出るのではないか。
- A. 区長さんと会ったの話では、反対の話は水面下のことであるように伺っている。
- Q. 収集運搬効率の金額について説明されたい。
- A. この金額については、輸送距離に基づくもので、燃料費と消耗品費のみの費用であり、車両の購入や人件費については考えていない。

意見

- ・ 森本・坊岡区については、どちらの区も候補地として委員会が決めれば受け入れるとのことだが、隣接区から反対の意見がある。隣接区の反対に関しては、あくまでも理解を求める努力ということで委員会を進めてきた。進入路の左岸、右岸の問題は実質的な問題ではない。用地取得にも理解はある。
- ・ 3区とも該当地区・隣接区の両方から理解があるところがない。最低限、該当地区の理解度がある地区を最適地として選定し、隣接区には事務局が理解を得る努力をされたい。森本・坊岡区が一番良い。
- ・ 収集運搬効率に大差はないが、森本・坊岡区は多年度で見れば費用はかなり安くなる。隣接区については、事務局が誠心誠意理解を得る努力を行う必要がある。
- ・ 八代区長会と八代区から反対の申出書が出てきている。内町区からも反対の要望書が出ている。以上の各区の状況で、どこが最終の候補地として一番優れているのか議論をすすめてほしい。
- ・ 小河江・八代区は市有地というメリットはあったが、八代区からの申し入れ書からすると、ニュアンスとしては反対と思われる。長期的な課題として軟弱土（有機質土）の問題が懸念されるという課題も残る。
- ・ 八代区の申し入れ書については、はっきりとした反対の言葉はないが反対と考えられる。

- ・ 口小野・袴狭区については、当初は受入れの理解があったが、営農者から風評被害の関係で受入れについては後退してきている。
- ・ 口小野・袴狭区では、反対者の関係で調整池と施設を離している。調整池にポンプが必要となるため長期的な維持管理費用がかかる。
- ・ 口小野・袴狭区については、当初非常に熱心な点もあったが、風評被害の関係から難しいと判断される。
- ・ 風評被害に関して最近の食の安全のこともあり、「フクノハナ米」の購入先である酒造会社がこのような施設ができたために、購入しなくなることも考えられる。風評被害も気にする点が多いので判断が難しい。
- ・ 香美町から考えると、香美町の個人搬入は43パーセントを占めることから、口小野・袴狭区では個人の理解を得にくいのではないかと思う。
- ・ 隣接区に対しては、これから十分話し合った段階で理解を得ていく必要がある。全国的な課題として、今までの施設の必要性を前面に出して建設を進めてきた手法ではなく、協議会等で隣接区の関心の高い方に入っていただき、事業の必要性の理解を図ることが必要である。
- ・ 建設協議会等を作って議論を図る方法もあるし、新しい施設を建設するにあたり、今の施設の状況をわかっていただく方法もある。今の段階では隣接区の反対については、理解を求める努力を条件とする評価基準を設けていかなければ絞れない。
- ・ 検討課題に対する事務局の回答を受けての総合評価を見ると、専門家の意見等を踏まえて検討していかなければならない。
- ・ 隣接区については、ボタンの掛け違いがあってはならない。隣接区住民の理解が絶対必要である。場所が決まったからといって安心してはいけない。どこに決まっても十分な話し合いをしていただきたい。

結 論

- ・ 森本・坊岡区については、理解度もあり、収集運搬効率も最も優れている。また、条件である進入路については、民家からさらに離すことも可能であり、概算工事費は3候補地に大きな差はない等、総合的観点から森本・坊岡区を最適地として選定した。但し、今後の建設推進に当たっては、地元区の要望を踏まえて隣接区等への理解を求める最大限の努力が必要である。
- ・ 小河江・八代区については、課題となっていた国交省による河道掘削土埋立て後の施設建設工期は、特に支障は無いと見込まれるが、軟弱土（有機質土）の長期的対策が課題として残る。また、八代区から施設候補地選定についての「申し入れ書」が、八代区区長会から反対の「申し入れ書」が組合に出されていることから理解を得るには時間を要する。このため、当該地区は建設に至るまでに相当期間を要することから、今回は候補地にすることを見送ることとした。

- ・ 口小野・袴狭区については、施設用地が調整池と施設建設用地に分離されるため、将来にわたり維持管理上の問題が残る。収集運搬効率は3候補地の中では最も劣っている。また、袴狭区においては、営農者の風評被害を懸念する声が増しに強まり、区としての姿勢も後退していると思われることから、建設に至るまでに相当期間を要するため、今回は候補地にすることを見送ることとした。